

目指すは2020年。
東京パラリンピック金メダル
ボッチャ加藤啓太選手

西区から

世界の頂点へ

「自分を信じることでできたら、夢は必ずかないます」

そんなメッセージを多くの人に伝えようと、障がい者スポーツ「ボッチャ」で

活躍を続ける加藤啓太選手。

2012年のロンドンパラリンピック出場など、

これまでの歩みを振り返りながら、

今後にかける強い思いを聞きました。

重度障がい者と 共にプレーできる ヨーロッパ発祥のスポーツ

西区を拠点として、障がい者スポーツ「ボッチャ」で世界大会に挑戦を続けている加藤啓太選手。2012年のロンドンパラリンピック出場や2015年の日本ボッチャ選手権大会優勝など、多くの国際大会、国

内大会で活躍しています。

ボッチャとは、イタリア語でボールを意味する言葉。ジャックと呼ばれる白いターゲットボールに対して、持ち球を投げたり転がしたり、あるいは他のボールに当たったりしながら近づけていく室内競技です。1980年代にヨーロッパで誕生して、現在では40ヶ国以上に広く普及しています。

「自分がこうしてスポーツを続けていられるのは、指導してくれた父や大会に帯同してくれる母、それにマッサージの先生など、たくさんの方の協力のおかげです」

練習や遠征には、競技の介助者やヘルパーの同行も必要。加藤選手は周囲のすべてのサポートに感謝の気持ちをお忘れません。

今後の大きな目標は、2020年の東京パラリンピックで金メダルを獲得すること。まずは出場権を得るために、これからの国内大会や国際大会で良い成績を残していくことが必要です。

「パラリンピックはメディアの注目度も桁違い。ほかの国際大会よりも特別な舞台です。ここで勝つことが、日本でのさらなるボッチャ普及にもつながっていくと思います」

ボッチャを始めたことで、世界中の仲間と出会い、大きな夢と希望を持つことができたという加藤選手。「自分がボッチャに救われたように、この競技を広く知ってもらうことで、ほかの障がい者の皆さんにも勇気や生きる力を持ってもらえたらうれしい。今後は自分でマネージメントを行っていくとともに、自分を信じて行動すれば、夢は必ずかなうんだということを証明していきたいです」と強い意気込みを話してくれました。

西區から世界の頂点を目指して一歩ずつステップアップしていく加藤選手の奮闘を、応援せずにはいられません。

夢は必ずかなうということを
2020年東京で証明したい



1. 重度訪問介護の会社「株式会社KEI」の代表取締役も務めている加藤啓太選手。近年は講演やセミナーも積極的に行っています。2. 東京パラリンピック出場に向けて、「ゼロからの再出発を目指したい」と意気込みを語ってくれました。3. 平成24年にはロンドンパラリンピックにも出場。BC3クラスでは日本初となる快挙でした。4. これまでに獲得したメダルの数々。ボッチャジャパンカップでは、これまでに4回の優勝を果たしています。5. 介助者はコートに背中を向けるのがルール。ゲーム中にコート内を見ることはできません。6. 投球補助具の向きやボールの高さを介助者に伝えながらプレーします。